

## 北前船主・西谷家と小樽（その1） ～画家・中村善策と西谷家のつながり～

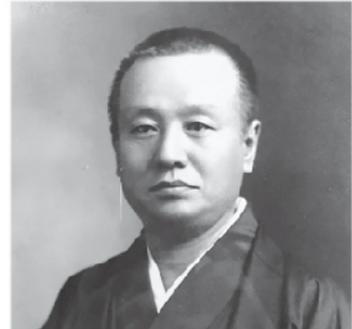
小樽商科大学 高野 宏康



中村善策による西谷貞子の肖像画。1920年頃の作品。市立小樽美術館蔵。



旧小樽倉庫（明治23-27年築）



五代目西谷庄八（1860-1933）52歳の頃の肖像写真。個人蔵。

たものである。

昭和3（1928）年、善策は郷里の先輩の勧めで結婚し、小樽の若竹町に新居をかまえた。この新居は西谷家五代目庄八により、かつて同社所有の工場だった空き家を借り受けたもので、小樽築港駅のすぐ近くにあった。同年夏、この家からの展望を描いた「北国風景」が二科展に入選し

た。当時、近所に小林多喜二が住んでおり、善策の家を頻りに訪れ、親交を深めた。多喜二の実家のパン屋からは毎日パンが届けられていた。六代目正治は父五代目庄八に反発し、同家の海運業は衰退していったが、善策たち小樽の芸術家を理解し、支援した。善策の絵画は、北前船主と小樽の文化のつながりを象徴する遺産の一つといえる。

### 【参考文献】

高野宏康「小樽に進出した北前船主・西谷家」『人文研究』第138・139号、小樽商科大学、2020年3月。  
中村善策『自伝抄 スケッチブック回想』読売新聞社、1983年。

小樽には北前船の遺産が数多く残っており、平成30（2018）年には日本遺産に認定されている。その一つ、旧小樽倉庫を創設した北前船主・西谷家は、宝暦10（1760）年に橋立（現・石川県加賀市）で創業した老舗だが、明治20年代に五代目庄八が小樽へ進出後、大きく飛躍し、新たな業態への転換に成功した。回漕業や倉庫業等の経済面だけでなく、小樽出身の画家・中村善策を支援するなど、小樽の文化にも大きな影響を与えた。

で西谷回漕店に入社した。同社で働きながら、三浦鮮治の主宰する小樽洋画研究所に通い、本格的に絵画を学び始めた。同7年、神戸支社への転勤のため絵画修行は2年ほどで中断したが、神戸での4年間、善策は小樽洋画研究所の展覧会に出品を続けている。この頃、善策は六代目正治と絵画について頻りに手紙のやり取りをしている。正治は善策が少年の頃から才能を認め、様々な援助を行っていた。

平成30年7月、西谷家の資料調査で、善策による西谷家六代目正治の妻・貞子の肖像画が発見され、市立小樽美術館の展覧会「中村善策と小樽・風景画の系譜」（平成30年10月26日～2月24日）で展示された。善策の肖像画作品は点数が極めて少なく、貞子を描いていることは西谷家との関わりが深いことが伺える。

善策は、小樽区堺小学校高等科、小樽実業補習学校を卒業後、大正5（1916）年、15歳

善策が画家になるために上京を決意する直前の半年間、小樽高商へ向かう地獄坂の脇に入る山道を登りつめたところにある虎杖の生い茂る山荘に籠もり、絵画に没頭した。この山荘は正治が厚意で提供したものである。半年間、「描いて描いてかきまくった」善策は、疲れた時は正治からもらった文学書や詩集を読みふけた。同13年、家出同然で上京した善策は、先輩の小樽で活躍した彫刻家・中野五一の世話になりつつ、翌年、二科展に初入選。さらに翌年には一挙3点入選を果たした。この3点は山荘で描い

【プロフィール】  
高野 宏康  
小樽商科大学グローバル戦略推進センター  
学術研究員。博士（歴史民俗資料学）。  
1974年、「北前船の里」で知られる石川果加賀市橋立町生まれ。明治大学卒。神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究所博士後期課程修了。小樽市地域型日本遺産ストーリー検討WG委員、北前船子どもフェリー使節団実行委員会事務局長、おたる案内人マイスター。

日立特約店  
**三立機電株式会社**  
小樽市色内2-10-1  
TEL 22-1121

<時計と貴金属>  
**アラ井時計店**  
小樽市花園3丁目2-2 ㊟3304

<特定建設業・一級建築士事務所>  
**(株)福島工務店**  
小樽市若松1-7-18  
TEL 23-3542代

(有)小樽分析工業所  
小樽市色内2-16-8  
TEL 22-3855

<食肉 ハム>  
株式会社 **肉のなかせ**  
小樽市有幌1-11  
TEL 32-5652

JXTGエネルギー特約店  
三菱商事エネルギー特約店  
株式会社 **荒田商会**  
本社/小樽市松ヶ枝1丁目32番6号  
TEL.0134-23-6261 FAX.0134-34-1614